



Beyond Boundaries

## 公立はこだて未来大学 越境する卒業生たち

2025年春、公立はこだて未来大学は創立25周年を迎えました。

2000年の開学以来、未来大生の背中を押し続けてきた理念は

「Open Space, Open Mind」。

システム情報科学分野に特化しつつ、

あえて境界を設けない学びと研究を追求してきました。

ガラス張りで仕切りのない開放的なキャンパスから

幾多の卒業生を送り出し、まさに今日このときも、

固定観念にとらわれず、学生自らの関心や問題意識に基づいて挑戦し、

自律的に境界を乗り越えていく「未来大生マインド」を育てています。

本書で紹介するのは、社会に出てからもさらにパワフルに

それぞれのフィールドで挑戦を止めない卒業生19名のインタビューです。

越境の先に広がる多様なキャリアの一幕をのぞいてみましょう。

## 目次

|                        |     |
|------------------------|-----|
| 坂本 大介さん(1期生).....      | P03 |
| 山田 圭飛さん(4期生).....      | P05 |
| 山形 庄平さん(5期生).....      | P07 |
| 本多 達也さん(10期生).....     | P09 |
| 浅沼 佑紀さん(11期生).....     | P11 |
| 杉村(小泉) 真祈さん(12期生)..... | P13 |
| 森 真嘉さん(14期生).....      | P15 |
| 七海 龍平さん(15期生).....     | P17 |
| 船戸 大輔さん(1期生).....      | P19 |
| 石神 圭太さん(2期生).....      | P20 |
| 木塚 あゆみさん(3期生).....     | P21 |
| 釜本 俊一朗さん(4期生).....     | P22 |
| 村山 幹朗さん(4期生).....      | P23 |
| 名塚 ちひろさん(6期生).....     | P24 |
| 山本 泰毅さん(11期生).....     | P25 |
| 工藤 卓也さん(12期生).....     | P26 |
| 鍋田 未奈さん(12期生).....     | P27 |
| 三好 良弥さん(15期生).....     | P28 |
| 岸本 勇太さん(16期生).....     | P29 |
| 沿革.....                | P30 |

## 大学の中に、函館に「閉じない」で あなたの優しさを技術でカタチに

### 北海道大学大学院情報科学研究院

情報理工学部門複合情報工学分野ヒューマンコンピュータインタラクション研究室

教授 坂本 大介 さん

システム情報科学研究科 博士(後期)課程 2008年3月修了 小樽潮陵高等学校卒(北海道)

#### 先輩のような存在だった1期生の先生たち

私のミッションはパソコンやスマホ、ロボットやAIをより使いやすくしていくことで“誰もが”情報技術の恩恵を受けられる社会を作ること。スマホやVRのような新しいコンテンツのインターフェースや、ニュースサイトでの最適な文字と行間を調べる研究などをしてきました。この分野の研究成果を社会実装していくには、異分野の研究者の協力や産学官の連携が欠かせません。今後も多種多様な人たちがプロジェクトに参加しやすいような仕組みやコミュニティを作りたいと考えています。未来大の1期生である当時のことを振り返ると、ゼロから全く新しい大学をつくりあげていった先生方・職員の方々のパワーやタフネスにただただ感嘆するばかりです。私が在学中に「未踏ソフトウェア創造事業」などの全国コンペに挑戦できたのも、先生方の惜しみない情報提供があったから。1期生に先輩はいませんが、先生と学生の距離がとても近かったこともあり、先輩のような存在でいてくれたと感じています。

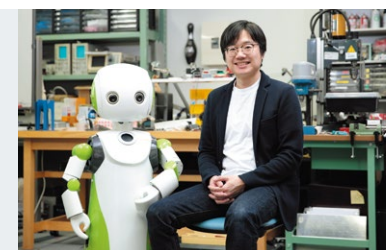
#### 友人や家族、遠くの誰かを想う小さな願い

未来大を満喫するコツ、それは「閉じない」ことです。世界は常に高速に動いています。大学の中に閉じないこと。函館に、北海道に、日本に閉じないこと。学生という身分に閉じないこと。私も、時間がある大学生という時期をたくさんの挑戦と失敗に使って成長していきました。2000年4月に開学した未来大はWi-Fiが珍しかった時代に学生が自由に使えるインターネット環境があり、従来は特定の学生にのみ提供されていたプログラミング教育やデザイン、アートをあらゆる学生に「開く」ことで新しいメディアを、コンテンツを、そしてITが世の中に生み出す新しい価値を世界に先駆けて示してきました。私たちが一足飛びに世界を変えることは困難ですが、もしあなたが誰かを想う小さな願い、「友人や家族の困りごとをなくしたい」「遠くの人にテクノロジーで温かさを届けたい」などの気持ちがあるのなら、未来大はあなたの大学です。思いついたら行動するとき。その優しさを技術でカタチにしてください。

#### 未来大での思い出

#### 「学長、僕たち化けました！」卒業ライブを開催

未来大初代学長の伊東敬祐先生は、開学前に配布された入学案内パンフレットで「化けましょう」と我々高校生に呼びかけました。実際、私も4年間で人生が大きく動き、「化けた」という実感を持って社会に出ていく未来大生の1人だったように感じています。そしてそう思えたのも周囲の方々のサポートがあればこそ、でした。その感謝の気持ちを伝えたくて軽音部の第一回卒業ライブ「学長、僕たち化けました！」を開催しました。伊東先生に「こういう学生が出てくれたことが本当にうれしい」と言っていただけ忘れがたい思い出です。



写真は、大学案内2020年度掲載時より

My  
FUN

入学後、軽音部と放送局を立ち上げました。バンドではベースを担当。卒業ライブはTHEE MICHELLE GUN ELEPHANTの曲を演奏しました。

## 函館が好き、未来大が好き 学生ベンチャーがわが街のIT企業へ

### ハコレコドットコム株式会社

代表取締役 山田 圭飛 さん

システム情報科学研究科 博士(前期)課程 複雑系情報科学領域 2010年3月修了 岩見沢緑陵高等学校卒(北海道)

#### 「若者が起業すると街が良くなる」を実践

中学の修学旅行で来た函館に魅せられて未来大を受験しました。恩師である鈴木克也先生のベンチャー論「若い人が起業すると街が良くなる」に導かれて、プロジェクト学習で取り組んだクーポンサービス「ハコレコ」を事業化するために在学中に起業。そこから山も谷も経験しましたが、今は株式会社化し、雇用も増やしてようやく勢いが出てきたように感じています。未来大出身の社員や現役の学生スタッフも活躍してくれています。これまで地域に関連する200以上のWEBサイトに携わってきましたが、その原点は協力企業に支援していただきながら取り組んだ「函館市公式観光情報サイトはこぶら」、そして大きな通過点となったのが函館市市政ポータルサイトの構築です。WEBアクセシビリティへの厳格な対応や200人以上の職員が運用するシステム設計など、行政サービスを円滑に提供するためのツール開発という重大な責任を伴う案件と向き合えたことは、会社と私双方にとって飛躍のきっかけになりました。

#### 安易に手を差し伸べない未来大の大人たち

未来大を一言で表すと「人格が良い大学」だと思います。特に先生方が少年・少女の心を持っていて、それを見ていたから生き方の幅が広がったと卒業後に実感しました。私たち学生のことを“お客様扱い”することもなければ、“学生さん”として軽んじるようなこともなく。ちょっと困ったくらいでは安易に手を差し伸べないけれど、本当に困ったら真剣に助けに来てくれる大人が多かったです。だからこそ自分も困難にぶつかったときに、その場で対応できる手段をすぐに考えてやってみる、違ったらまた別の手段を試してみるというチャレンジ精神が自然と身についたんだと思います。それともう一つ、未来大からは「街・大学を好きになる」という感覚も教わりました。高校までは少し「街や学校が好き」という感覚が恥ずかしいものでしたが、「函館が好き」「未来大が好き」と堂々と言える人たちの姿に憧れと眩しさを感じたことを覚えています。こうした全てを含めて「人格が良い大学」に帰着するかなと思いました。

#### 未来大での思い出

#### 部員9人を超えた野球部、一部リーグにも昇格

4期生の私たちが入学した年に未来大の野球部が初めて部員9人を超え、大会に出られるようになりました。先輩たちがすぐ下の世代を大事にしてくれたこともあり、練習も楽しい思い出ばかり。北海道の二部から一部リーグが上がったこともありました。大会の遠征に出るときは、皆で車を出し合って5泊くらいの小旅行気分。ホテルに泊まる資金がないので公民館みたいなところを借りて、温泉に入ってから座布団を敷いてザコ寝したことも懐かしい思い出です。今、当社の札幌の拠点長を務めているのも元野球部のメンバーです。



写真は、大学案内2017年度掲載時より

#### My FUN

野球部でのポジションはレフト。卒業するまでに徐々に部員が増え、軟式野球だけでなく硬式のチームも新たに生まれました。

in Tokyo

## デザインでできることの広さを知り コミュニケーションで前に進む

### 株式会社日立製作所

研究開発グループ デザインセンタ UXデザイン部

主任デザイナー 山形 庄平 さん

情報アーキテクチャ学科 2008年3月卒業 市立札幌旭丘高等学校卒(北海道)

### より価値ある鉄道サービスデザインを提案

日立製作所の柱の一つに鉄道事業があり、自分も今、鉄道領域におけるサービス構想に携わっています。どんなサービスやシステムがあれば、鉄道事業者の方々がより価値ある鉄道サービスを提供できるのか、お客様との話し合いを重ねながら最適解を探っています。私が学生だった2000年代はWEBデザインが始めた頃で「将来はそういう職業に」と思っていたのですが、未来大に入ってから単にモノの見せ方を考えるだけではないデザインの世界、UIデザインや情報デザイン、コミュニケーションデザインといったより広い分野にデザインの力を活かすことができるということを知りました。先生方も大手企業出身の方が多く、貴重な現場の話をいくつも話していただいたことを覚えています。AI活用が定着してきた今、WEBデザイン等の仕事はすでにコモディティ化し、それよりもさらに上流の視点、お客様と一緒に掘り起こした課題に対してデザインによる解決策を提案する力が強く求められていると実感しています。

### 自然と身についたコミュニケーション力

未来大で最も成長したと思えること、それは社会人に必須のコミュニケーション力が、授業を通して自然と身についたことだと感じています。プロジェクト学習を筆頭に、あらゆる場面で周囲とコミュニケーションをとってはじめて前に進むことや、自分一人では決して完結しないことが多々ありました。皆で課題設定やどういう役割分担をしてその解決策を実行するかを話し合う。これはまさに今、私が仕事で日々取り組んでいることであり、その原体験はプロジェクト学習でした。また、私が所属していた岡本研究室は縦のつながりが強く、今も交流が続いています。実務的な仕事は生成AIに任せたとしても、対人のコミュニケーションは依然、私たち“人”のテリトリーです。相手とやりとりする中で新しく何かを生み出す種を見つけるのは、コミュニケーションがないとできないことだと思います。未来大にはこれからは“コミュニケーション力の高い人材を輩出する大学”として知名度を高めてほしいと願っています。

### 未来大での思い出

#### 企業の先輩たちが見てくれた卒業研究レビュー

4年次の夏、研究室で盛岡合宿に行きました。そこで卒業した先輩たちが私たち4年の卒業研究にレビューしてくれました。学生なりに懸命に考えたアイデアも企業の第一線で働く先輩たちから見ると、足りないことだらけだったと思います。自分がやりたいことでも、ユーザ視点に立つとどう見えるのかを考える姿勢を教えていただきました。自分が社会人になってからも何度か参加したことがあります。デザインに限らず、若いうちはやり直しがきくので失敗しても大丈夫。皆さんも興味があることにどんどん飛び込んでみてください。



写真は、大学案内2020年度掲載時より

My  
FUN

プロジェクト学習はインターネットがつながったモノを介してゼロイチで回答する新しいSNSを提案。ちょっと斬新すぎました(笑)。

## 未来大キャンパスから輩出、 DE&I時代のイントラプレナー

### 富士通株式会社

Antennaプロジェクトリーダー

本多 達也 さん

システム情報科学研究科 博士(前期)課程 メディアデザイン領域 2015年3月修了 坂出高等学校卒(香川県)

#### ろう・難聴者の世界を広げるデバイス開発

富士通の中でも障がいやDE&I※の理解を促すためのプロジェクトを多様な分野の専門家や当事者の方々と「共創」する部署に在籍しています。私にとっての共創の始まりは、未来大の文化祭から。ろう者の方をご案内したことがきっかけで、音を振動と光に変換するデバイス「Antenna(アンテナ)」の開発に取り組み始めました。入社後も「Antenna」の改良や普及に努め、東京2025デフリンピックでは卓球観戦でろう・難聴者、そして聴者の皆様に装着してもらいました。この他にも、ろう学校の生徒さんたちが通学に使う駅に流れるアナウンスやオノマトペを視覚化する装置「エキマトペ」を開発しました。「エキマトペ」つながりで手話を学び始める人がいたりして、共創の現場から少しずつでも行動変容が生まれるところに大きなやりがいを感じています。現在、「Antenna」は全国の8割以上のろう学校で導入されていて、ついに海外展開も決まりました。未来大がなかったら今の自分はいない、そう実感しています。

#### 「社内社会起業家」という働き方を実践

自分がやりたいことを組織の中で実現しながら、よりよい社会の発展に力を注ぐ。そういう働き方を実践する自分のような存在を「ソーシャル・イントラプレナー(社内社会起業家)」と言います。夢を実現するには周囲の共感が必要です。当初は一人で始まった「Antenna」プロジェクトも、たくさんの方々が共感を寄せてくださったおかげでここまで成長することができました。共感を集めるヒントは、熱量を共有して楽しむ“FUN”が大切。そこから思いがけないイノベーションや出会いへと広がっていった体験談を自著『SDGs時代のソーシャル・イントラプレナーという働き方』にまとめました。学生のときに日々をルーティーンに従って漫然と過ごしてしまうと、将来の進路も教科書に載っているような職業しか思いつかなくなりがちです。でもこれから先は、職業も働き方も自分で新しくつくることができる時代。私にそれを教えてくれたのは未来大でした。これからも未来を見つめる未来大でいてほしいです。

#### 未来大での思い出

##### 未来大は面白い大人たちと出会える場

祖父が建築士だったこともあり、建築家山本理顕氏が設計した未来大の建物に感動して進学を決めました。特に好きだったのが図書館です。蔵書も企画展も空間もすばらしくて、授業以外はほぼ図書館に入り浸っていました。もう一つの思い出は、とにかくいろんな先生たちと密に話せたこと。僕にとって未来大は「面白い大人たちがいる」ところ、多様な価値観に触れられる場でした。自分たちの「当たり前」が刻々と進化する現代だからこそ、色々な価値観を持つ大人たちと学生時代に出会うことが、とても重要だと感じています。



写真は、手話サークルやNPOを立ち上げた  
2009年在学時より

My  
FUN

学生時代に手話通訳のボランティアを始め、手話サークルも立ち上げました。文化祭で出会った当事者の方とは今も交流が続いています。

※DE&I/Diversity(多様性)・Equity(公平/公正性)& Inclusion(包摂性)を軸に組織の中で多様な人がいきいきと働き、成果を出し続けるための考え方。

## 年間2,000人以上に会う採用担当が実感 社会人経験を先取りする未来大の学び

### NTTデータグループ

浅沼 佑紀 さん

システム情報科学研究科 博士(前期)課程 情報アーキテクチャ領域 2016年3月修了 市立函館高等学校卒(北海道)

#### 目の前の相手にも社会にも価値を届ける

NTTデータグループはITやデジタル技術を通じて社会インフラや行政、企業活動を支える仕組みづくりを行っている会社です。これまでSEやプロジェクトマネージャとして国税庁や国土交通省等に関わる大規模プロジェクトに携わってきました。もともと10年で「社会的に影響のある大規模プロジェクトに名指して指名されるプロジェクトマネージャになりたい」という目標がありましたが、若手の頃から責任の大きい案件を任せいただき、入社4年間で実現。全社表彰を受けた経験もあります。現在は新卒採用担当として採用戦略の立案、イベント企画、広報、学生との面談などを担当しています。現場で培った経験を活かしながら、これからの社会を支える人材との出会いをつくろうとしています。同時に組合活動や全社的なプロジェクトにも関わり、部門を超えた連携や経営層への提言にも取り組んでいます。目の前の相手にも、その先の社会にも価値を届けられることが、自分にとって仕事の一番のやりがいです。

#### 物事の構造を理解し、本質を捉える力

仕事柄、年間2,000人以上の大学生や卒業生と接する機会がありますが、やはり未来大は他の大学とは大きく異なる存在だと感じています。まず授業内容がアカデミックな研究と実学の両方をカバーできるちょうどいい構成となっています。プログラミングの授業ですらプレゼンテーションを求められ、どういう意図でどういう構造で作成したのかを説明することは社会の先取りをしていると感じました。また、プロジェクト学習で机上の理解だけでは得られない経験を積むことができるのも大きな強みです。社会に出ると目の前の課題にその場のぎで対応するのではなく、物事の構造を理解し、本質を捉えながら考える力が求められます。現場でのシステム開発やプロジェクト推進はもちろん、現在の採用や組織づくりにおいても、状況を整理し、本質的な課題を見極める力は欠かせません。未来大で培った“変化する技術や環境に振り回されず、土台をもとに考え続けられる力”が、今の自分にとって大きな財産になっています。

#### 未来大での思い出

##### 教授の好物、枝豆を育てた時間も大切な思い出に

未来大は先生方との距離感が圧倒的に近い大学です。授業や研究だけでなく課外でも学生との距離が近く、先生方が無邪気に「○○やってみない?」と声をかけてくれることが多々あり、新しいことを始めるチャンスの入り口に。その結果、想像もなかったような経験ができて、成長した自分に会えます。お世話になった教授の好物が枝豆だったこともあり、研究室の同期と一緒に未来大の敷地を開墾して畑を作ったこともありました。先生方や仲間たちとたくさん笑いあった時間そのものが、大切な思い出として残っています。



写真は、大学案内2023年度掲載時より

My  
FUN

未来大は先生方との距離感が圧倒的に近かったです。卒業後も先生方とお酒を片手に近況を楽しく話せる素敵な関係性があるんですよ。

t there be

changing



## 仕事のペースを落とさず子育ても 私から話しかけて築く自分の居場所

### アクセント株式会社

Consultant 杉村(小泉)真祈さん

情報アーキテクチャ学科 2015年3月卒業 北星学園女子高等学校卒(北海道)

#### 地元札幌で育児とフルタイム勤務を両立

アクセントの東京本社勤務でしたが、将来的な子育てを考えたときに身内や頼れる人がいてくれる地元の札幌で働きたくて異動を希望しました。おおよく夫の札幌勤務も実現し、今は実家や姉たちに協力してもらいながら2歳の子育てとフルタイム勤務を両立しています。勤務体系は週に3回のオフィス出社と週2回の在宅ワーク。現在の主なお客様とチームメンバーは皆東京で札幌メンバーは私のみという構成です。仕事内容は生命保険会社や電力会社のITコンサルを軸に、チーム間調整や仕様調査・対応方針の検討、遅延作業のキャッチアップなど多種多様です。アサインの継続指名を受けるのが大きなやりがいです。一般に共働きで子どもが生まれると妻が時短勤務になるケースもありますが、わが家では夫と話し合い、私のフルタイム復帰を皆にサポートしてもらっています。育児を“母親だけのもの”にしたくない思いが大きいです。今後は経験したことがない分野にも挑戦しながら、自分らしく働くことを目標にしています。

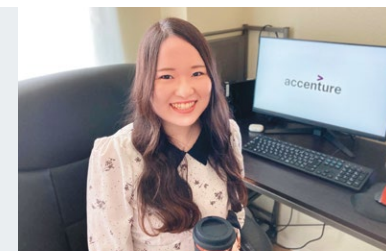
#### オフィス感覚の空間で磨かれていく行動力

私が未来大生だったとき、女子学生はクラスに1割強でしたが自分も周囲も性差にとらわれず“その人”として相手を見る、フラットな関係性だったと記憶しています。未来大のオープンスペースは実社会のオフィスを思わせるところがあり、誰にでも話しかけやすい空気が流れていました。社会に出ると、挨拶や質問をさせてもらうために自分から話しかける行動力がより大切に。私が仕事に復帰するとき、北海道のセンター長にお時間をいただいて「このように働いていきたいが実現可能か」と直接自分の考えを伝えることができたのも、未来大で先生たちにも同じように接して得られるものが多かった経験が土台になっていると思います。育休中にAIが加速度的に進化し、「これから追いつけるだろうか」という不安もありましたが、幸い会社が自主研修プログラムを提供してくれました。世の中の情勢は目まぐるしく変わっています。未来大も、学生たちが最新の情報をキャッチできる大学であり続けてほしいです。

#### 未来大での思い出

##### ハンドボール部と野球部かけもちマネージャー

入学時のオリエンテーションで旅行部の先輩が私たち新入生を函館観光に連れて行ってくれたのは、とてもありがたかったです。そのメンバーの中にハンドボール部の先輩もいて「マネージャーやらない？」と誘われ、もともとが“頑張ってる人を応援したい気質”なので二つ返事で引き受けて。野球部ともかけもちでマネージャーをしていました。どちらも練習は週1、2回程度。春夏になると大会遠征があり、皆で北海道内をあちこち出かけられたのも楽しかったです。部員同士のLINEグループがあり、互いに近況を報告し合っています。



写真は、大学案内2023年度掲載時より

My  
FUN

卒業研究は若者が参入しやすい農業をテーマに、函館の農家に協力してもらい水やりのタイミングなどの「見える化」に取り組みました。

in Tokyo



## AIで変わりゆくゲーム業界最前線 目標は国際カンファレンスで成果発表

### 株式会社スクウェア・エニックス

クリエイティブサポートセンター AI&エンジン開発ディビジョン

AIエンジニア 森 寅嘉 さん

システム情報科学研究科 博士(前期)課程 知能情報科学領域 2019年3月修了 岐山高等学校卒(岐阜県)

#### ゲーム自動チェックプログラムを開発中

在学中に1か月間インターン体験したときの働きやすさが決め手になり、当社に入社しました。現在の業務はLLMを用いたQA(品質管理)業務効率化のためのツール開発に取り組んでいます。昨今のゲームは様々なプラットフォームに対応することが求められ、膨大な数の確認項目をチェックする業務に注がれる人的コストが、業界全体で問題視されています。そうしたチェック業務の一部にAI技術を導入し、業務効率の改善を目指しています。ゲーム業界にはGDCやCEDECといった自社の開発力をプレゼンテーションするカンファレンスがあり、2021年には私も初めて登壇しました。学生時代から数々の講演資料を引用してきたGDCに、まさか自分が登壇するとは思っていませんでした。採択された時の驚きと感動は今も忘れません。現在開発中のゲーム自動チェックプログラムを実際の開発工程に組み込み、会社の利益向上に貢献できたあかつきには、再びこのテーマでGDCの舞台に立つのが今の目標です。

#### 最新情報にアップデートした若手に期待

現在AIはとてつもない勢いで進化しており、画像処理や自然言語での会話、3Dモデルの生成などそれぞれの特徴を持つAIが乱立しています。1年も経たずに性能が段違いの新モデルが出てくるような現状を一人のエンジニアが全て把握する、というのはすでに現実的ではなく、ニーズに合った分野のAI技術を調査し扱うことができるエキスパートが必要になっています。このときに重要なことはAIがどうやって動いているのか基礎的な理解力を持っているかどうか。個々人の知識のアップデートが難しい現状も踏まえると、ここで大いに輝くのが大学等で最新情報を学んできた若手の力です。AIコーディングが当たり前になった今のゲーム業界が求めているのは、「AIへの理解力」をベースに新たな活用方法を提案してくれる人材像。AIを真に活用できる人材です。未来大にはこれからも、そうしたゲーム・IT業界を盛り立ててくれる人材を輩出し続けてほしいと期待しています。

#### 未来大での思い出

#### 夢中で手を動かしてプログラミングで自己表現

初めて作ったゲームは情報表現入門のブロック崩し。その次に作った拡張現実ピタゴラ装置では仮想の遊園地を作ったところ、友人からメリーゴーランドや観覧車を次々とリクエストされ、なぜか本筋とは関係ない部分を実装していったことを覚えています。思えば、未来大で最も大きかった学びは「やりたいことをプログラムで自己表現する力」だったように感じています。皆さんも手を動かすことに臆病になりすぎないで、どれだけソースコードが不格好でも思いついたものはすぐに自分の手を動かす体験を楽しんでほしいと思っています。



写真は、大学案内2021年度掲載時より

My FUN

未来大は「楽しみ上手の変わりもの」が多かったです。授業の合間に研究室でゼミ仲間とテーブルゲーム「カタン」で盛り上がったのも楽しい思い出です。

## 失敗を恐れない未来大文化で成長、 距離の近いデジタル支援で課題を解決

### 株式会社テックファイター

代表取締役 七海 龍平 さん

システム情報科学研究科 博士(前期)課程 高度ICT領域 2020年3月修了 市立札幌新川高等学校卒(北海道)

#### 起業志望で距離の近い“ファイター”に

身内に自営業が多く、学生時代から漠然とですが“いつか起業する”という目標は持っていました。自分が新卒入社した2020年はいわゆる国内のコロナ元年にあたり、WEB広告システムのサーバー開発の仕事がフルリモート体制に。自分は生来、人と一緒に課題を解決したいという気持ちが強く、顧客との距離をもう少し縮められる環境に身を置きたくて転職を決意。他社を1社経験したのち、IT・DX支援事業の自社を起業しました。デジタル技術やツールは増え続けていますが、それを使いこなせているかどうかで仕事の生産性に大きな差が生まれます。自分が目指すのは、そこでお悩みの方々と課題を密に共有し、取引先という仕事上の関係性よりももう半歩、中に歩み寄って支援を行うこと。“デジタル技術で共に立ち向かっていきます”という気持ちを込めて、社名を「テックファイター」にしました。地方自治体のDX支援や企業のIT活用支援、建築設備業の基幹システム移行プロジェクト等を手がけています。

#### 主体性と対応力が伸びていく未来大ライフ

高校の頃に動画サイトが流行り始め、情報分野への興味がわいて未来大を志望しました。未来大で一番成長したところ、それは主体性を身につけることができたことです。無論、大前提として授業やゼミでプログラミングや情報科学の知識を信じられないくらい吸収することができましたが、それ以上にあらゆる場面で自ら手をあげて“自分がどうしたいか”を表明することが多かったように感じています。挑戦する機会が多く、ときには失敗することもありましたが、それを前向きな経験として受け止める文化が未来大には根づいていました。この“失敗を恐れずに挑戦する姿勢”は今も大切にしています。また、学校というよりも実社会に近い環境は当時「大人」だと認識していた人たちと関わる機会も多く、社会に出てからも恥ずかしくないような対応力を自然と身につけることができました。単科大学とは思えないほど多様なバックグラウンドを持つ学生が集まり、日々たくさんの刺激を受けて自分が磨かれていった学生時代でした。

#### 未来大での思い出

#### 今は自身がレビューワーとして現役生を応援中

3年次に取り組んだ「ミライケータイプロジェクト」、あれほど真剣に人とぶつかり合いながらチームで一つのゴールを目指した経験はまだまだありません。メンバーと夜遅くまで議論を重ねた時間やレビューの方から「リーダーの役割は人に仕事を振ること」と教えていただいたことは、一生の宝物。今は自分がレビューワーとして現役生を見守っています。仮想通貨を作った高度ICT演習にも前職時代に協力し、その時に集まった学生たちが未来大学発のスタートアップ第1号として今も挑戦し続けてくれるのがすごくうれしいです。



写真は、在学時の「プロジェクト学習」プレゼンテーションの様子

My  
FUN

SPAJAM 2023では推し活と空手の正拳突きを組み合わせたアプリ「推忍」を開発。審査員絶賛で本選最優秀賞を受賞しました。



## 自分が学ぶ場は、自分でデザインする ゼミで得た気づきを会社経営に活かして

### 株式会社アートフル

代表取締役社長 船戸 大輔 さん

システム情報科学研究科 博士(前期)課程 メディアデザイン領域 2007年3月修了 帯広緑陽高等学校卒(北海道)

#### 技術と表現の両面で国際芸術祭をサポート

大学卒業後、フリーランスを経てテクノロジーと表現を架け橋にする会社を起業しました。主な事業の柱はシステム開発とアート・エンタテインメント制作で、2014年から関わっている札幌国際芸術祭では作品のインストールや作家の制作をサポートしています。技術と表現は別のものでなく「社会や人の体験をどのように設計し、つなげるか」という点で本質的につながっていると考えています。1期生としての思い出は、世界各地からアーティストを函館に招聘し展示やワークショップを行った2001年開催の「アートハーバー」です。学外の人とのつながりを実感するとともに、大学での学びを社会でどう活かすかを初めて真剣に考えるきっかけになりました。

#### 創作の土台は領域を横断して形にする力

会社を大学のゼミのように、個々が自律的に能力を伸ばし互いに高め合える組織にしたいと考えており、その原点は木村ゼミにあります。メディアデザインをベースに美術や学習科学など多様な視点に触れながら、そこで学んだのは、「本当に良いものをつくるには、自分が学ぶ場を自分で選び、デザインする」という気づきでした。また、在学中に培った「領域を横断して形にする力」が、今の経営や創作活動の土台になっています。未来大には、あなたの好奇心を真剣に受け止めてくれる先生や、型にはまらない仲間、そして受け入れてくれる函館という街があります。一度きりの人生を全力で楽しみたい皆さんと、いつか一緒に面白い仕事ができる日を楽しみにしています。



## 手探りの時代に培った自己開発能力で 未来のファーストペンギンたちを応援

### 株式会社電通北海道 マーケティングプランニング部

石神 圭太 さん

情報アーキテクチャ学科 2005年3月卒業 苫小牧東高等学校卒(北海道)

#### 広告代理店で実現する北海道の経済活性化

広告代理店のマーケティング・デジタル部署で主にシステム関連のクライアントワークと新規クライアント・ベンダーの調達業務を行っています。クライアントワークはPMとして各プロジェクトを調整しながら進めており、調達はそれら進行中のプロジェクトに最適なデジタルシステム開発会社等を都度アサインできるようにしています。その結果、信頼を得た人脈から次のクライアントをご紹介いただくという形です。私は最後の就職氷河期世代で道内に就職先がなく、やむなく北海道を出るという選択肢しかありませんでした。この選択をせざるを得ない状況を再び生まないために、北海道の経済活性化を図り、そのための複数のプロジェクトに日々取り組んでいます。

#### 「NoMapsはこだて」で函館と母校に恩返し

未来大同窓会の理事としては道南の産業や教育をアップデートするイベント「NoMapsはこだて」を開催し、企業や社会人の方々と学生や道南の方をつなげることで、函館の活性化を図っています。私の時代は先輩が1期生の皆さんのみ。教員の皆さんも手探りの時代だったため、「自ら考え、自ら進める」という自己開発能力が培われたのは本当にありがたかったです。未来大は全体で1000人ぐらいの小さな大学です。ですが、それぞれが目標を定める大学の一つであると確信しています。皆さんも何らかの分野での“ファーストペンギン”を目指して、その一歩を踏み出してください。

in Osaka



## スタジオに息づく〈未来志向〉 世界の広さを楽しんで!

大阪芸術大学 アートサイエンス学科

准教授 木塚 あゆみ さん

システム情報科学研究科 博士(後期)課程 2022年3月修了 久留米高等学校卒(福岡県)

### オープンスペース・オープンマインド

高校生のときに脳科学に興味を持ち、未来大の複雑系科学科に入学しました。大学院修了後、研究職として未来大に通った時期もあり、現在は大阪芸術大学に勤務しています。私の専門は生体情報のビジュアライゼーションや、それを使ったコミュニケーションツールなど情報システムの研究・開発を行っています。研究者・教育者の一人として今、未来大を振り返ると、本学に〈未来志向〉、狭い世界に閉じこもるのではなくオープンスペース・オープンマインドで世界に出ていく志向が醸成されているというのは、非常に幸せなことであったと感じています。先生方も各分野のトップレベルの研究者揃い。既存概念にとらわれない人が多く、私の性分にとっても合っていました。

### 尊敬できる友人や先輩たちに囲まれて

吹き抜けのスタジオは垣根がなく交流しやすく、できないことを他の人に聞いたり頼んだりしやすかったため、新しいことを生み出しやすい環境でした。尊敬できる面白い友人や先輩たちと出会い、美術サークルや演劇部、軽音部、舞踏サークル、新聞部と興味があることに次々と取り組み、そこから学外での制作活動が様々なコンペで認められて…と自分の世界が広がっていく。それら全てが今、芸大で教える自分の貴重な経験知になっていると実感しています。自分に真剣に向き合ってくれて、将来のことを一緒に考えてくれる先生や友人を見つけたら人生が楽しくなります!これから未来大生になる皆さんもぜひ楽しんでください!世界は広いです。

in India



## 環境が変わっても前向きに考える しなやかさをまとって海外赴任中

東芝テック株式会社 出向:東芝ソフトウェア・インド

Vice President 釜本 俊一朗 さん

情報アーキテクチャ学科 2007年3月卒業 岡崎高等学校卒(愛知県)

### インドオフィスで80人チームを牽引

東芝グループの中でもPOSシステムの開発に関わっており、2022年4月からインドに出向し80名のチームで新しいプラットフォームの開発強化に取り組んでいます。インドでは日本で“普通に当たり前”だと考えていたことが通じなくなり、チームで実現していきたいことをどのように言語化・明文化するか、皆が腹落ちするにはどう伝えたらいいかを日々考え続けています。制度やルールを作るのは簡単ですが、ソフトウェアの基本は「人」です。お互いに理解を深めるためにメンバーと1on1ミーティングをしたり、会社のお祭りで現地語の歌を披露して皆から大歓声をもらったり。熱量の高いメンバー全員で盛り上げていこうとしています。

### 海外でも評価されるプロジェクト型学習

未来大といえばプロジェクト学習ですが、実はインドでも多くの大学がプロジェクト型学習に力を入れており、社会の最新課題とITを結びつけたテーマが数多く扱われています。技術力だけでなくベンチャースピリットや自律性を備えた人材が育成されており、私がインドで学生を採用する際もプロジェクト学習にどのように取り組んだかを尋ねています。これまで自分が関わった未来大の卒業生も自律性が高く、環境が変わっても前向きに行動できるしなやかさを備えている方々ばかりでした。VUCA (Volatility: 変動性、Uncertainty: 不確実性、Complexity: 複雑性、Ambiguity: 曖昧性) 時代の今、そういう力こそが大きな価値を生むと確信しています

in Tokyo



## マーケティング領域の常識を壊して再構築 未来は与えられた選択肢に満足しない人間がつくる

### 株式会社コレクシア

代表取締役 村山 幹朗 さん

システム情報科学研究科 博士(前期)課程 メディアデザイン領域 2009年3月修了 市立札幌藻岩高等学校卒(北海道)

#### 知識ゼロのマーケティング業界で起業

大学院修了後マーケティング業界に知識ゼロで入りましたが、大学で学んだ人間理解や行動デザインの知見を活かせる一方で、テクノロジー等の面で不便や現実との乖離を感じ、自社の「コレクシア」を起業。大手国内企業をクライアントにマーケティングリサーチ業務支援やブランド戦略構築のコンサルティング・調査分析を行っています。2024年には一般社団法人日本エビデンスベースマーケティング研究機構を設立し、日本ではまだなじみがないエビデンスベースマーケティングの普及に努めています。未来大など、大学で講師をする機会もあり、多数の学生が授業で学んだメソッドを使ってマーケティング職の採用を決めてくれるのが励みになります。

#### 25年前に学んだ「未来」が現在の礎に

「未来大」の名の通り、当時学んだことは現在の礎になっていると実感します。やりたいことをやれる環境、それを後押ししてくれる文化が自分の興味を広げ、異分野をつなぎ新しいアイデアをつくる素地を育ててくれたのだと思います。特に小野哲夫先生のゼミは人と違うことを究めることを良しとする文化が強くあり、より面白く、新しいものを探す時間を仲間と過ごせました。今でも私は部下や学生によくこう言います。「AとBのどちらかを選べと言われたら、より良いCを考えて提案する人間になれ」。与えられた選択肢に満足せず、創造的な進歩を考えずにはられない、そんな気概を身につけたのは、あの楽しい時間のおかげであったと思います。

in Kushiro



## デザインとクリエイティビティで 「道東でもできる」挑戦と応援の地に

### 一般社団法人ドット道東

理事 名塚 ちひろ さん

システム情報科学研究科 博士(前期)課程 メディアデザイン領域 2011年3月修了 釧路湖陵高等学校卒(北海道)

#### 「笑えるくらい涼しいまち」が大反響

大学で地元の釧路を離れ、就職も東京でしたが次第にローカルへの関心が高まり釧路にUターン。デザインを取り入れた地域活動を経て一般社団法人ドット道東を設立。アートディレクターとして企業や自治体のブランディング、『.doto』等の出版・求人事業を行っています。2024年に制作した釧路商工会議所さんのポスターのコピー「笑えるくらい涼しいまち」は、ネガティブに捉えられがち「涼しさ」を誇れる個性として言い換えたもの。大きな反響があり、地元の人たちもこれを自分たちの魅力として語り始めています。「ないものねだり」ではなく「すでにある価値」に目を向けるきっかけになればと思っています。

#### 答えのない課題に挑む基礎体力を養う場

未来大では「何のためにデザインするのか？」根本から考える講義が多く、社会に出てその考え方が生きる場面が多くありました。授業のたびにプレゼンをするので、プレゼンスキルがおのずと身についたことも良かったです。先輩・後輩の垣根が低く、卒業後もその交流が続いていることはとてもありがたいです。今の私の目標は「挑戦と応援が循環する文化」を道東に根づかせていくこと。これからも未来大には、答えのない課題に挑み続けられる「基礎体力」を養う大学であってほしいと思います。高校生の皆さんもやりたいことや自分なりの使命が、進んでいくうちにきっと見えてきます。未来大にはその挑戦を後押ししてくれる環境があります。

in Sapporo



## 社会で輝く仮説思考と協働体験 「未来」を提示し続ける母校に期待

株式会社アイスタイル T&C開発センター プラットフォーム本部 データ分析システム部

山本 泰毅 さん

システム情報科学研究科 博士(前期)課程 複雑系情報科学領域 2016年3月修了 市立札幌藻岩高等学校卒(北海道)

### 不確実性の高い時代に生きる仮説思考

当社は「@cosme」等のECサイトやリアル店舗を軸に国内外でサービスを展開しています。私は全社横断型のデータ基盤プロダクトマネージャーとして、データを活用したプロジェクトにおけるアーキテクチャ設計および活用推進を担当しています。現代は不確実性の高い社会であり、多くのチャレンジを行う上で大学時代に培った仮説思考が役立っています。また、異なる専門性やバックグラウンドを持つ学生同士が協働した経験も、仕事のチームビルディングやコミュニケーションの基盤になっていると感じています。ゆくゆくは新事業の立ち上げから成長フェーズまで一貫して経験できるよう、マネジメントのスキルをさらに磨いていきたいです。

### 技術と人間、双方を見つめる人材育成

未来大にはこれからも「異なる専門性を持つ人々をつなぐハブ」であり続けてほしいと願っています。私が在学中に学んだ、情報技術・デザイン・人間・社会への深い洞察と共に専門性を越境して協働する姿勢は、社会に出た今、最も価値のあるスキルだと実感しています。開放的なキャンパスから自由な発想と対話が生まれ、社会の複雑な課題に対して、技術と人間中心の視点をバランスよく持った人材を送り出し続ける。そんな「未来」を提示し続ける母校であることを期待しています。これから入学する皆さんは美しい函館の街と開放感あふれるキャンパスでさまざまなことに挑戦してみてください。皆さんが未来大で描く新しい「問い」を楽しみにしています。

in Tokyo



## 本業と社外活動の両輪で成長 「自分が何者か」を語れる未来大生に

株式会社LX DESIGN

執行役員CTO 工藤 卓也 さん

システム情報科学研究科 博士(前期)課程 高度ICT領域 2015年3月卒業 札幌北陵高等学校卒(北海道)

### 教育現場の課題解決システムを提案

LX DESIGNは学校・教育委員会と民間企業をつなぎ、教育現場の課題解決を支援する事業を展開しています。私は中心事業である外部人材活用プラットフォーム「複業先生」の1人目のエンジニアとしてシステムの立ち上げから関わり、現在は全社の技術責任者として広く経営戦略の立案に参画しています。私が常に心がけているのは、「指示されたものを作るだけのエンジニアにならない」こと。ユーザーである先生方のリアルな声を聴き、自分事として捉え、「この機能で目の前の人を救えるか」と自問自答しながら仕事に取り組んでいます。将来的には経営や組織開発にも強くなり、より多くのスタートアップを支援していきたいと考えています。

### 研究と並行した「Code for Hakodate」

20代の頃は本業で大規模サービスの改善を学ぶ一方で、事業の立ち上げ等のスキルを社外活動で補完していました。現在は自社の成長にコミットしながら、プラス社会貢献や次世代への還元をテーマに動いています。この「複数の活動を並行させる」という姿勢は、在学中に研究と並行して、函館の社会課題解決にITで取り組んだ「Code for Hakodate」の経験が原点です。エンジニアにとって「個の力」を磨くことは今後さらに重要になります。時代の変化を捉え、自らの働き方を柔軟にデザインしていくことが、本業・社外活動双方の質を高めてくれます。今後も母校から「自分が何者か」を語れる学生が増えてほしいと期待しています。



## 「頑張ってたよかった！」卒業後も誇りを感じさせてくれる未来大の凄さを実感

株式会社アドウェイズ Game Marketing Division

Lead Director 鍋田 未奈 さん

情報アーキテクチャ学科 2015年3月卒業 小樽潮陵高等学校卒(北海道)

### ゲーム会社のクリエイティブで心を動かす

小学生の頃からデザインに関わる仕事に就きたいと思い、北海道の国公立でデザインが学べる未来大に進学しました。現在は広告代理店で大手ゲームクライアントのWEB広告やオフライン広告のクリエイティブ制作とディレクションを行っています。入社2年目に初めて任されたコンペが社内外で認められ、全社総会およびグループ総会で半期MVPをいただきました。デザイナーも営業のように活躍できると感じた良い経験でした。自分が制作したクリエイティブを見て誰かがアプリをダウンロードする、駅広告の写真を撮ってSNSにアップしてくれる、そんな夢が現実となった今、これからも多くの人の気持ちを動かせるように活動していきたいです。

### コナン映画の「ずーしーほっきー」に感動

未来大での学びがどれほど社会と深くつながっているかを実感する場面は多々あります。中でも忘れられないのが、2024年公開の劇場版『名探偵コナン 100万ドルの五稜星』を観た時のことです。スクリーンに自分が参加したプロジェクト学習、ご当地キャラクター制作プロジェクトから生まれた「ずーしーほっきー」が登場した瞬間、驚きと共に思わず涙が溢れていました。当時は目の前の課題に必死でしたが、自分たちが生み出したものが今もこうして社会で愛され、活躍している姿を見て「あの時全力で頑張ってたよ良かった！」と心から思うことができました。卒業してからもこうした誇りを感じさせてくれるのが、未来大の凄さだと感じています。



## 経験を自信に変えて取り組む 正解がないセキュリティプロジェクト

株式会社サイバーエージェント

エンジニア 三好 良弥 さん

システム情報科学研究科 博士(前期)課程 高度ICT領域 2020年3月修了 旭川北高等学校卒(北海道)

### 大規模組織の安全性と利便性の両方を追求

自社の社員および業務委託などで関わる社外の方が適切な権限でサイバーエージェントのサービスにアクセスできるようにするための、セキュリティを意識した基盤作成プロジェクトに携わっています。例えば、適切な認証・認可のもと、社員が業務に必要なソースコードへアクセスできる環境を整えています。また、業務委託の方については担当プロジェクトに限定するなど、それぞれの役割に応じたIDおよびアクセス権限を付与できる仕組みを整えています。多様なバックグラウンドを持つメンバーが関わる環境の中で、大規模組織ならではの安全性と利便性の両立を追求できる仕組みを形にできたときに、自分の貢献を実感することができます。多くのユーザの信頼を得るための工夫を重ねる過程そのものが、やりがいです。

### ハッカソン出場、今も続く研究室つながり

未来大は、自分で考えて行動することを楽しめる人が大きく成長できる場所。私も在学中は毎年のように同じメンバーでハッカソンに出場しました。研究室のつながりもいまだにあり、定期的に食事に行く関係が続いています。プロジェクト学習や高度ICT演習、奥野研究室で培った経験、すなわち“正解が明確ではない課題に対して自ら問題を発見し、解決策を提案・実装する”はまさに今、自分が会社で取り組んでいる業務そのもの。業務要件や技術要件が複雑に絡むプロジェクトでも自信を持って進める基盤になっています。私たちを送り出してくれた未来大には、これからも学生が主体的に挑戦できる環境を大切にしたいと思っています。



## 始まりは「筋電義手プロジェクト」 大学で工学・医療・社会の橋渡し役に

### 北海道大学 大学院理学院

数学専攻 博士課程 岸本 勇太 さん

複雑系知能学科 2019年3月卒業 小樽潮陵高等学校卒(北海道)

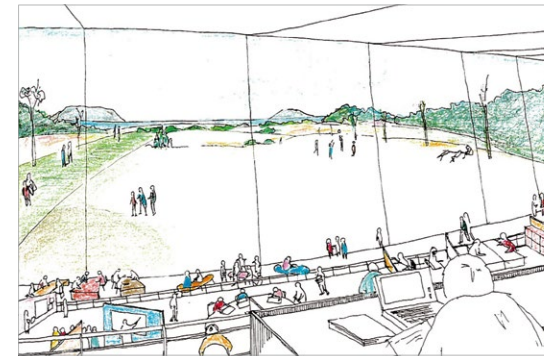
#### 自動運転から「てんかん」研究者に転身

卒業後、一度企業に就職し自動運転技術の研究開発に携わりましたが、現在は大学院で「てんかん焦点」を同定する研究に専念しています。てんかんは脳内の神経細胞の過剰な放電が原因で発作を引き起こす神経疾患です。その過剰な電気活動が最初に起こる脳内領域である「てんかん焦点」を特定することは、治療に関わる重要なテーマです。私自身がてんかんの当事者だということもありますが、今の分野に関心を持つきっかけは、プロジェクト学習の筋電義手制作でした。生体信号を解析する技術が困難を抱える人々の生活に直接影響を与えるという原体験から、自動運転術の開発で培った工学的知見を医療分野で活かしたいと思い、大学院へ進学する道を選びました。

#### 自分で考え抜いた経験が確かな土台になる

学生時代から明確な目標があったわけではありませんでした。大学で機械学習や数学的な考え方に触れながら、少しずつ自分の関心を形にしていきました。未来大は何かを一方的に教わるのではなく、自分で問いを立て、試し、考え直すことを重視する大学です。最初は戸惑いもありましたが、自分の頭で考え抜いた経験は、分野や場所が変わっても確かな土台として残り続けるということを日々実感しています。現代は最初に“正解”を選ぶことよりも、自分で考え続ける力を身につけることが大切です。大学はゴールではなくスタート地点。「試行錯誤しながら成長していきたい」と考えるあなたに、未来大はきっと相性のいい居場所になります。

## 沿革



スタジオ設計時のスケッチ(山本理顕設計工場提供)



開学初年度の大学案内(2000)

- 1997 函館市、上磯町、大野町、七飯町、戸井町の1市4町(現在は合併により、函館市、北斗市、七飯町の2市1町)で組織する函館圏公立大学広域連合を設置
- 1998 校舎建築工事着工
- 1999 公立はこだて未来大学設置認可
- 2000 初代学長 伊東敬祐 就任  
公立はこだて未来大学開学([システム情報科学部]複雑系科学科、情報アーキテクチャ学科)
- 2001 校舎(本部棟)が第26回北海道建築賞を受賞  
校舎(本部棟)が第14回北海道赤レンガ建築賞を受賞
- 2002 校舎(本部棟)が日本建築学会賞(作品)を受賞  
課題解決型学習の先駆けとなる「プロジェクト学習」スタート  
公立はこだて未来大学大学院設置認可
- 2003 公立はこだて未来大学大学院開設
- 2004 2代目学長 中島秀之 就任  
地域連携、産学官連携等を組織的に支援する共同研究センターを開設  
校舎(本部棟)が第9回公共建築賞(生活施設部門)国土交通大臣表彰を受賞
- 2005 研究棟の供用開始  
東京サテライトオフィス(秋葉原)開設
- 2006 プロジェクト学習の教育構想が文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に採択
- 2007 函館市高等教育機関連携推進協議会(2008年4月からキャンパス・コンソーシアム函館に名称変更)の設立に参加
- 2008 公立大学法人設立  
メタ学習センターを設置
- 2009 地域ネットワーク支援事業として、はこだて国際科学祭を開催(毎年開催)
- 2010 複雑系科学科と情報アーキテクチャ学科を情報アーキテクチャ学科と複雑系知能学科に再編  
大学・大学院一貫(6年制)の高度ICTコースを開設
- 2012 FUNコラボラティブ・ラボラトリ制度を創設  
共同研究センターを社会連携センターに発展改組  
メタ学習ラボの活動がスタート
- 2013 全国15大学との連携による「分野・地域を超えた実践的教育協働ネットワーク(enPiT)」事業スタート(～2021)
- 2014 公立はこだて未来大学出版会による出版活動スタート  
函館市国際水産・海洋総合研究センター内にサテライトラボを開設  
東京虎ノ門にサテライト・オフィスを移設
- 2015 情報システムデザインセンターを設置
- 2016 3代目学長 片桐恭弘 就任  
未来大発ベンチャー「株式会社未来シェア」を設立
- 2017 人工知能研究拠点「未来AI研究センター」開設
- 2019 東京都文京区本郷にサテライト・オフィスを移設(～2025)
- 2023 4代目学長 鈴木恵二 就任
- 2024 未来大発スタートアップ支援制度開始
- 2025 開学25周年



公立はこだて未来大学  
FUTURE UNIVERSITY HAKODATE

●問い合わせ先  
事務局入試・広報・就職課 入試・広報担当  
〒041-8655  
北海道函館市亀田中野町116番地2  
TEL 0138-34-6444 FAX 0138-34-6383  
E-MAIL exam@fun.ac.jp  
Web Site <https://www.fun.ac.jp/>

